

有機農業の取組事例（高萩市：結農実WORKS ～ゆのみワークス～）

JAS認証圃場で生産される「高萩ほおずき」

結農実WORKS（ゆのみワークス）では、全ての圃場で「有機JAS認証」を取得（2020年12月）し、環境にやさしい農業を展開しています。

◆ 経緯等

- ・ 笹川夫妻 福島県いわき市出身（元食品スーパー勤務）
- ・ 2014年 農業へ参入（長野県、山梨県で有機栽培を研修）
- ・ 2015年 オーストラリアへ（日本の米生産プロジェクト参加）
- ・ 2016年 高萩市へ移住（市の「地域おこし協力隊」に応募）
- ・ 2017年 結農実WORKSを立ち上げて取組を開始

▶ 「高萩ほおずき」として産地化を目指す

- ・ 現在、オーガニック食用ほおずき「高萩ほおずき」をはじめ、ミニトマト、ズッキーニ、きゅうり等の有機野菜の生産、販売（地元大手スーパー、ネット販売等）、加工、農業体験等のイベントも実施



「農業で人との縁を結び、持続可能な地域づくりを志す」 *名前の由来

取組のきっかけは、高萩市の地域おこし協力隊として、「ほおずき」の生産・加工に携わったこと（以前から「農薬を使用しない栽培」を考えていて、経験もあった）

▶ 高齢化や東日本大震災の原発事故の影響等により低迷する中山間地域（高萩市）の活性化を図ることを目的に、本格的に営農活動を開始

□ 参考

- ・ 高萩市では、これまでにおいても、「食用ほおずき」の生産は行われていたが、結農実WORKSは、さらに、農薬や化学肥料を使用しない、環境にやさしく、安全・安心な生産の取組を目指した
- ・ さらに、農薬等を使用しない食用ほおずきの生産を徹底して、より安全で安心な作物の提供が出来るように、有機JASを取得



笹川夫妻の圃場は、連続ドラマ「ひよっこ」舞台（実家）近く

各種の補助事業等を活用した取組

経営の安定化を図るために、加工品販売による収益確保や、獣害防止対策の実施による収量確保など、課題解消に向けた取組等への支援を通して、中山間地域における産地の育成・活性化を図っています。

■ 課題の解消等

- ・ 現実的には、生果販売だけでは、経営を安定的に継続するための収益確保が困難な状況にあることから、B品や規格外品を有効に活用し、付加価値を付けた加工品の販売（儲かる農業ステップアップ事業を活用～平成31年度～）

▶ 6次産業化に着眼し、飲食スペースを兼ねた加工販売施設を整備（+飲食店営業許可を取得）・・・「消費者との交流の場」を創出

- ・ 近年、ハクビシン等の中型獣の被害を受けて、収穫量が大きく減少したことから、電気柵の実証圃を設置（防止効果の確認+技術導入の推進）



□ 高萩ほおずき「ゴールデンベリー」
 ・ゴールデンベリーは南米ペルー原産の食用ほおずきで、現地ではインカ帝国時代から食べられている。
 ・生食で、そのままフルーツ感覚で食され、酸味・甘味・苦味が備わっており、加工用途も広く、肉料理やワイン、またチーズとも相性がいい。

□ 笹川夫妻の地域への参入に対する地元からの支援等
 ・ 区長さんの紹介で、中古の（隣接の）住宅2軒を購入
 → 1軒は現在の居宅、もう1軒は加工・飲食施設
 ・ 紹介された畑（耕作放棄地等を再生）で栽培（約80a）
 → リスク分散のため、畑を分散（作物も多品目）対応（実際に、台風19号で壊滅的な被害を受けた経験有）

↓
 ~夫妻の構想～
 中山間地域における「隠れ家」的な位置づけを考えている

<笹川夫妻からのコメント> 「県北中山間地域は、人口も流出し、仕事もなく、魅力がない」という人もいますが、自分たちは「（それは）自分でつくるもの」と考えている。だから、自分たちで農産物も色々工夫しながら生産し、加工販売という仕事もつくり、交流施設もつくり、魅力づくりを少しずつ進めている。